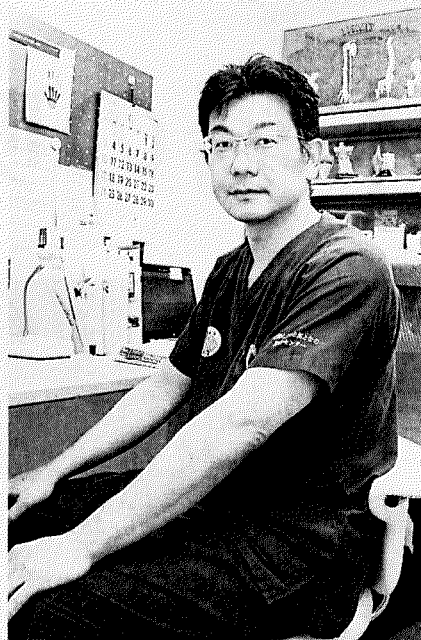


四国こどもとおとなの医療センター
リハビリテーション科医長 井上智人氏

香川の医療最前線

397



■いのうえ・ともひと 1996年関西医科大学卒業。徳島大病院、黒部市民病院(富山)などを経て、2004年10月から現職。日本整形外科専門医。丸亀市飯山町出身。47歳。

加齢などの要因で膝の軟骨がすり減り、症状が重症化すると歩行にも支障が出る「変形性膝関節症」。近年は「骨切り術」と「人工膝関節置換術」が有効な治療法として定着しているという。四国こどもとおとなの医療センターの井上智人リハビリテーション科医長に二つの治療法の特徴や手術に要する時間、入院期間などについて聞いた。

にO脚になることが多いのが特徴だ。——どんな治療法があるのか。

関節疾患の場合でも、程度が軽いケースは、投薬や度が高いケースは、手術が必要になる。現在の手術は必要となる。現在の手術は膝下の骨を切り、O脚をX脚気味に矯正する「骨切り術」と、上下の関節面の骨を削り、代わりに人工関節で体重を受ける「人工膝関節置換術」の二つが主流となっている。

変形性膝関節症

高齢者も手術しやすく 脚支える筋肉鍛え予防を

変形性膝関節症とは。膝関節は毎日、体重の負担を受けながら動かしているため、軟骨が徐々にすり減る。軟骨のすり減りは骨のすり減りにつながり、やがて関節の表面がでこぼこになり、それによって生じる炎症から痛みを感じるようになる。これが変形性膝関節症。日本人の場合、すねの骨が内側に湾曲しており、体重のかかり方から内側の軟骨がすり減り、徐々に

理学運動療法などの保存的療法で症状を和らげることが出来る。一方、人工膝関節置換術は変形した膝関節の表面を取り除いて、人工膝関節部品(インプラント)に置き換える。患部の状況によって、関節表面の半分のみを人工物で置換する部分置換と関節表面を全置換する方法がある。

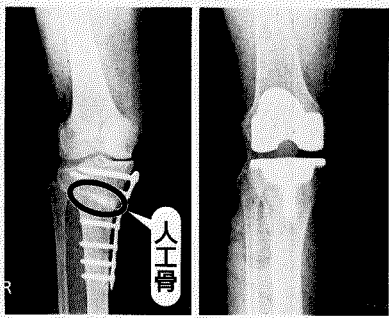
■加齢が主な要因と聞くと、高齢者でも手術は受けられるのか。人工膝関節置換術は、体

簡単に説明すると、骨切り術は骨の内側から切り込みを入れ、偏った荷重を均等にかかるようにする。その際、切り込みを入れた部分には人工骨を埋めて強固な金属製のプレートで固定する。人工骨は患者本人の

全身の状態に問題がなければ90歳以上の患者でも手術してきた。骨切術は、高齢者であれば骨粗しょう度が強くなるため、骨癒合に不利との理由で敬遠されていた。しかし、技術や医療器具の進歩によって現在は高齢になっても比較的手術が受けやすくなった。どちらの手術でも痛みを緩和することは可能で、リハビリに要する期間や術後の使い勝

手を考慮して受けることが望ましい。手術に要する時間はどちらも1時間30分ほど。術後の入院期間としては平均3〜4週間程度とイメージしてほしい。

——今後の展望は。高齢化の進展とともに今後も膝関節にトラブルを抱える人が増加することが予想される。膝の痛みを抑えるには、日頃から脚を支える筋肉を鍛えたり、可動域を広げたりしておくことが重要。一方、今後は整形外科の分野でも人工多能性幹細胞(iPS細胞)などを利用した治療法が増えてくる見通しだ。再生医療の進歩によって、現在の治療法では解決できない症状が治療できるようになり、多くの患者が抱える痛みを緩和することが期待できる。



膝の内側に切り込みを入れ人工骨をプレートで固定する骨切り術(左)と人工膝関節部品(インプラント)に置き換えた人工膝関節置換術

■ 四国こどもとおとなの医療センター

5人の整形外科医が在籍し、運動器官を構成する組織の骨、軟骨、筋、靭帯、神経などの疾病や外傷の治療を行っている。

所在地：善通寺市仙遊町2-1-1
電話：0877(62)1000
<http://www.shikoku-med.jp/>